

気象庁における気候変動適応への取り組み

時間スケールの長い地球温暖化について国民の問題意識の維持・向上のため、気候変動の現状と見通しについて信頼性の高い情報を継続的に発信するとともに、最新の知見や技術を活用して新たな情報を

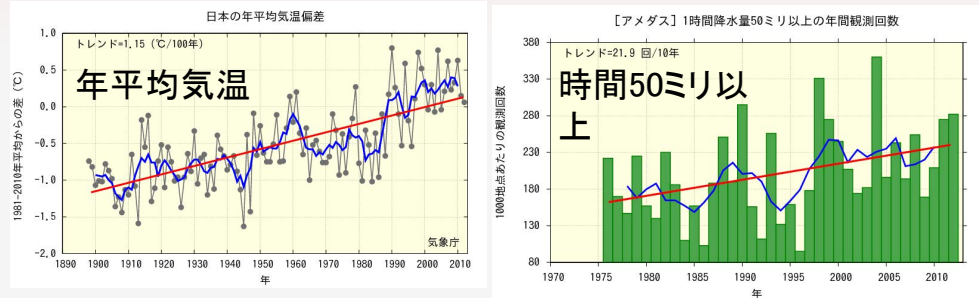
随時提供 気象庁の役割

- ・19世紀以来の気象、海洋観測データの蓄積
- ・天気予報等の予測シミュレーション技術を活用した地球温暖化予測
- ・全国の気象台ネットワークを生かした行政や市民向け普及啓発活動



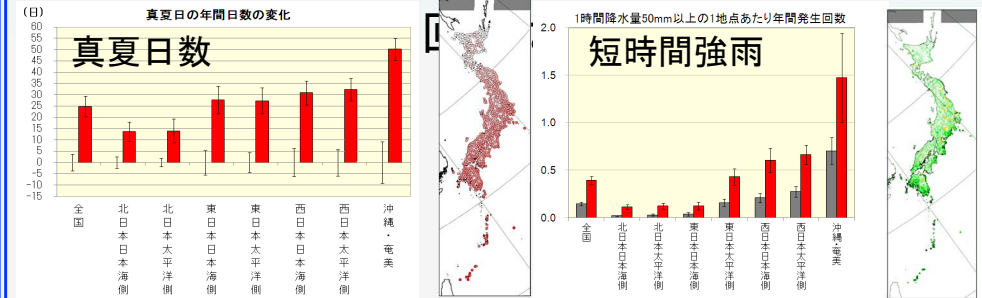
観測事実

- ・気温、降水量、大雨回数等の長期変化の解析
- ・日本の気温は100年当たり約1°C上昇
- ・大雨や強雨の発生回数は明瞭な増加傾向、な



将来予測

- ・数値気象モデルで21世紀末の気候シミュレーション
- ・真夏日数は30日程度増加(東日本、西日本)



成果の伝達・普及啓発

- ・地域毎の気候変動の実態や将来変化予測を刊行物やウェブ、報道機関等を通じて継続的に提供
- ・行政機関との連絡会や一般向け講演会を各地で実施
- ・職員による学校等への気象や地球環境の出前講座
- ・適応策研究者等への温暖化予測データ(GPV)提供



気候変動に関する健全な理解と意思決定を支援する科学的根拠、データを提供